

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	塚本 美紀	職名	准教授	学位	修士(教育学)(テンブル大学 2005年)
----	-------	----	-----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語教育学	異文化理解教育、異文化理解・対応力の測定、ESD(Education for Sustainable Development)

研 究 課 題
異文化理解教育に関して、異文化理解・対応力の測定について中心に考察する。また、持続発展可能な社会の在り方について、英語教育および国際理解教育の観点から考察を深めたい。

担 当 授 業 科 目
グラマー・コンポジションⅠ(A)、(B)(前期) 小学校英語教育入門(前期) 専門演習Ⅰ(前期) グラマー・コンポジションⅡ(A)、(B)(後期) 小学校英語教育研究(後期) 英語教科教育法Ⅰ(後期) 英語教科教育法Ⅳ(後期) 専門演習Ⅱ(後期) 卒業研究(通年) 事前及び事後の指導(通年)(英語学科) 教育実習Ⅱ(通年)(英語学科) 教職実践演習(中・高)(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【グラマー・コンポジションⅠ】 重要な文法項目や表現に繰り返し触れることができるよう設計されている教材を使用し、学生が予習、授業、復習の流れの中で、学習項目を習得できるようにした。さらに、言語活動の時間をとることができるように、配布資料を活用して解説するなどして解説の時間の短縮化を図った。
授業科目名【小学校英語教育入門】 グループ討議やプレゼンテーションがしやすい教室を使用し、学生が討議を通して自らの理解を深め、プレゼンテーションの機会を増やすことによって自らの考えをまとめて言語化する力がつくように工夫した。広い教室を使用することで、学生の発表の音声が大きく明瞭になった。
授業科目名【専門演習Ⅰ】 国際語としての英語の在り方について、学生が理論と実践の両面から理解できるように、さまざまな文献を読んだり、さまざまな国の人々と英語で交流したりする機会を持てるようにした。

授業科目名【文法・コンポジションⅡ】 授業で学んだ文法項目や英語表現が定着するよう、身の回りのことや自分が考えていることなどについて、口頭で発表したり、さまざまなテーマで英文エッセーを書く機会を設けた。
授業科目名【小学校英語教育研究】 授業で学んだ学習の理論やメソッドについての理解を深めることができるように、実際の授業のビデオや指導案を見て討論したり、全員に模擬授業をさせたりした。
授業科目名【英語教科教育法Ⅰ】 学生にとっては、馴染みの薄い用語などが多く出てくるので、学生が理解しやすいよう具体例などもあげながら説明した。また、毎回、授業の内容に関連することについてのレポートの提出を求め、学修したことの理解を深めるようにした。
授業科目名【英語教科教育法Ⅳ】 これまで学修した理論を実践に活かせるよう、全学生が模擬授業を実施する機会を設けた。また、学生が実施する模擬授業を録画し、それを見ながら振り返りを行った。
授業科目名【専門演習Ⅱ】 来年度の卒業論文の執筆に備え、各学生が自分の興味のある分野の書籍や論文についてのプレゼンテーションを実施する機会を設けた。また、それについての質疑応答を通して、テーマ設定が適切であるかどうか考えさせた。
授業科目名【卒業研究】 計画的に卒業論文を執筆できるように、論文の書き方や執筆のスケジュールについてのガイドラインを作成した。また、自らが設定したテーマについての思考を深められるように、定期的に進捗状況を発表してもらい、他のゼミ生から質問に答える機会をもった。
授業科目名【事前及び事後の指導】 英語教科教育法Ⅳで行った模擬授業で明らかになった課題を克服する形で、模擬授業を行ってもらった。このことによって、模擬授業を実施した学生も、見学した学生も、授業改善のプロセスの一部を体験できたと思う。また、中学校や高等学校の教員を招き、教員の在り方や指導法等について講演してもらった。
授業科目名【教育実習Ⅱ】 教育実習については、受け入れ校によって対応が大きく異なることもあるので、全体での指導は汎用性のあるものに留め、個別の案件については臨機応変に対応できるよう学生と電子メールや SNS ですぐに連絡がとれるようにして対応した。
授業科目名【教職実践演習】 学生が将来授業を行う際の選択肢が増えることをねらって、ワールドカフェ形式の討論やパワーポイントを用いた発表など、授業のやり方にさまざまな形を取り入れた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

アクロス「英語教師のための異文化研究会」 日本ESD学会 北九州サステナビリティ研究所	副代表理事（2016年8月～現在に至る）	1990年9月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2017年6月～現在に至る
---	----------------------	---

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) Developing Rubrics to Assess the Development of Intercultural Competence of Japanese University Students as a Learning Outcome of Study Abroad	共	2019. 3	四天王寺大学紀要 第67号	① SNSの利用が日本人大学生の言語及び異文化能力に与える影響についての考察 ② 共著者名 井川好二 塚本美紀 ③ (p. 77 – p. 104)
(翻訳)				
(学会発表) Effects of Social Media on the Development of Japanese University Students' Linguistic & Intercultural Competences	共	2019. 2	15th CamTESOL Conference (於 Institute of Technology of Cambodia, Phnom Penh, Cambodia)	① 日本人大学生が海外研修によって身につけた「異文化能力」を検証するためのルーブリック開発に向けた理論的・実践的な基盤についての考察。 ② 共同発表者名 井川好二 塚本美紀
			教育研究業績 総数 (2019. 3. 31現在) 著書 1 (内訳 単 0、共 1) 学術論文 10 (内訳 単 6、共 4) 学会発表 9 (内訳 単 0、共 9)	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
「異文化理解・対応力」ルーブリック開発のための基礎研究	日本私立学校振興・共済事業団	○塚本美紀 (井川好二)	500,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
日本英語検定協会 北九州 ESD 協議会 Zonta International（世界の女性の地位向上を目指す国際的奉仕団体）	面接委員 会員 北九州ゾンタ書記	1993年7月～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2018年6月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会 委員（2018年4月1日～2019年3月31日） 教職課程委員会 委員（2018年4月1日～2019年3月31日） 職員研修委員会 委員長（2018年4月1日～2019年3月31日） キャンパスハラスメント相談員（2014年4月1日～2019年3月31日） ゴールデンZクラブ 顧問（2014年4月1日～2019年3月31日） 教職員懇親会 委員（2016年4月1日～2019年3月31日） 学生個人情報保護委員会 委員長（2018年4月1日～2019年3月31日）